

資料ーケンネベツ川

河川環境調査総括表

河川名： ケンネベツ川

調査年月日： 平成17年8月16日～18日（森林管理局） 平成17年9月26日～10月3日（北海道）

- 注1) 河川環境は、河口より高さ1mの天然の滝（魚止滝）までを整理した。  
 注2) 区間は、河川工作物、沢の分岐、魚止滝で区切っている（図面：河川工作物及び河川環境の状況の工作物No, データ区分点を参照）。  
 注3) プールは工作物等下流の水深、広がり縦×横。 注4) 落差とは工作物等の流水面からプール水面までの高さ。  
 注5) 河床組成の①は礫なし、②は20cm以下の礫が主に混在、③は②以上の礫が主に混在、④は岩盤状を指しその占める割合を示す。

区間	区間長 (m)	工作物 等落差 (m)	工作物下流側の プール(m)	工作物 等越流 水深(m)	水面幅 (m)	河川 水深 (m)	水温 (℃)	pH	河床組成 (%)	沈み石 (%)	河川形 態(可児 式)	スギゴ ケの有 無	濁水の 流入の 有無	河畔林 (%)	枝沢の 数	魚影を確認し た魚種
河口～1(北海道)	210				8	0.2	10	7.8	③100	0	Aa-Bb	無	無	50	0	シロザケ・カラフトマス
1(北海道)～2(北海道)	52	2.8	1.3、9.0*24.0	0.07	12	0.2	10	7.9	②20③80	0	Bb	無	無	50	0	オショロコマ
2(北海道)～3(北海道)	55	2.8	0.8、5.0*13.0	0.04	15	0.2	10		②80③20	0	Bb	無	無	50	0	オショロコマ
3(北海道)～4(北海道)	77	4.1	0.4、4.0*19.0	0.04	25	0.2	10		①20③80	0	Bb	無	無	50	0	オショロコマ
4(北海道)～5(北海道)	59	3.5	1.8、6.0*16.0	0.08	18	0.2	10	7.8	②20③80	0	Bb	無	無	50	0	オショロコマ
5(北海道)～6(北海道)	318	2.7	0.8、5.0*14.5	0.04	10	0.3	10		③100	0	Aa-Bb	無	無	100	0	オショロコマ
6(北海道)～7(北海道)	68	4.2	0.9、4.0*16.0	0.06	11	0.3	10		③100	0	Aa-Bb	無	無	100	0	オショロコマ
7(北海道)～A	51	7.4	2.3、5.0*29.0	0	13	0.3	10	8.4	②100	0	Bb	無	無	100	0	オショロコマ
A～8(北海道)	85	9.5	0.6、4.5*20.0	0.04	6	0.3	10		②20③80	0	Bb	無	無	100	1	オショロコマ
8(北海道)～B	113					0.3	10	8.3	②20③80	0	Aa	無	無	100	1	オショロコマ

## 土砂動態調査総括表

河川名：                    **ケンネベツ川**

注1) 土砂動態は流域全域を整理した。

注2) 区間は、河川工作物、沢の分岐、魚止滝で区切っている。

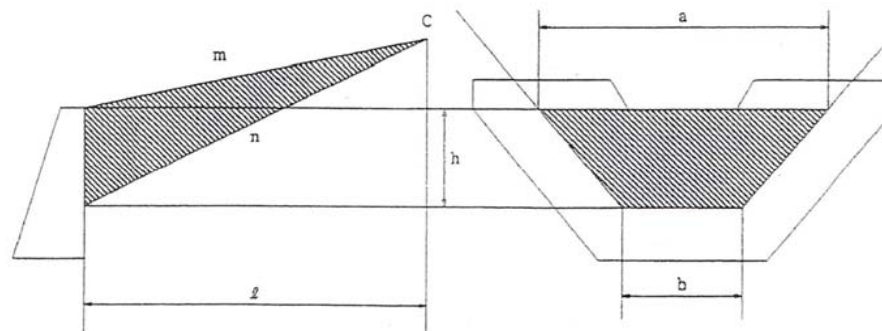
注3) 区間は、別添の図面（崩壊地及び溪流内滞留土砂）内の工作物No、データ区分点を参照する。

区間	区間長 (m)	山腹状況						溪流内滞留土砂 (m <sup>3</sup> )
		山腹崩壊地		特殊荒廃地		復旧崩壊地		
		個数	面積 (ha)	個数	面積 (ha)	個数	面積 (ha)	
河口～1(北海道)	210							
1(北海道)～2(北海道)	52							
2(北海道)～3(北海道)	55							
3(北海道)～4(北海道)	77							825
4(北海道)～5(北海道)	59							430
5(北海道)～6(北海道)	318	3	0.03					2,054
6(北海道)～7(北海道)	68							700
7(北海道)～A	51							
A～8(北海道)	85							3,400
8(北海道)～B	113							
Aから上部すべて	1,250							344
Bから本流上部すべて	3,330	13	6.39			13	20.02	5,170
Bからケン沢上部すべて	730	3	0.55			4	3.26	
計	<b>6,398</b>	<b>19</b>	<b>6.97</b>			<b>17</b>	<b>23.28</b>	<b>12,923</b>

推定貯砂量計算式

$$V = \frac{l}{6} \cdot \frac{h^2}{n-m} \cdot (a+b+c) \cdot \alpha$$

- V : 推定貯砂量                      c : 堆砂区域末端の溪床幅  
 h : 治山ダム有効高                α : 割増係数 (ポケットの状態で1.0~1.5)  
 a : 放水路部の有効幅              ℓ : 堆砂区域長  
 b : 溪床部有効幅                    n : 現溪床勾配                      m : 計画勾配



ケンネベツ川										
因子		北海道ダム							計	
		No1床固工	No2床固工	No3床固工	No4床固工	No5床固工	No1谷止工	No2谷止工		No3谷止工
放水路部有効幅 (m)	a	41.3	47	56.7	61.6	46.6	20.2	47.7	60.5	
溪床部有効幅 (m)	b	25.3	32.2	33.6	33.7	25.1	11.9	27.7	33	
堆砂区域末端の溪床幅 (m)	c	12.8	15.8	9.2	10	4.4	21.8	20	3.5	
ダム設置前の溪床勾配	n	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.09	0.09	0.136	
堆砂勾配	m	0.018	0.024	0.018	0.02	0.019	0.036	0.041	0.035	
ダム有効高 (m)	h	2.5	3	4	3	3	6	7.5	7.5	
割増係数	α	1	1	1	1	1	1	1	1	
貯砂量 (m <sup>3</sup> )	V	1,591	3,098	5,103	3,159	2,238	5,989	18,253	9,004	48,435